

ニュウナイスズメ (スズメ科) 全長 14 センチ

普通に見慣れているスズメとかなり似ているが、じっくりと観察すると違いが分かってきます。

習性はスズメと違い、住宅街にはほとんど現れることがありません。稲穂が実る田んぼに出掛けると、百羽単位の群れを見かけることがあります。

スズメかニュウナイスズメの違いを見分けるには双眼鏡が欠かせません。田んぼの近くにススキやヨシなどの群生地があると、探しやすくなります。ここは猛禽類などの襲撃から逃れるために、いざというときは繁みの中に隠れることが出来る安全地帯なのです。



葭原から田んぼに出掛ける時を待つ。

周囲の状況が安全だと分かると、1羽が先陣をきって飛び立った。他の仲間が一斉に後を追った。

8月下旬頃からこうした行動が見られたが、稲の穂はまだ熟していません。スズメ達にとっては柔らかくて食べやすいのでしょうか。昔は害鳥のスズメを追い払うために、あちこちで爆音機が鳴り響いていました。

しかし、今は見ることも耳にすることも無くなりました。スズメの数が少なくなったのか、それとも被害が少ないのでやめてしまったのだろうか。



オスは背中が茶褐色で、両頬にはスズメのような黒い斑点がありません。



メスは白っぽい眉斑が横に伸びている。

ネットのウィキペディアでは次のように記されていました。

長い間、本種は晩夏から初秋にかけて田に大群で押し寄せ、稲の未熟果を食い荒らす大害鳥と信じられていた。目にする機会が少ないにもかかわらず、鳥獣保護法でスズメと共に狩猟鳥に指定されているのは、それゆえである。



稲穂を目指して飛び降りてきた。(オス)



そのまま見えなくなるほど下がっていった。(オス)